

令和6年度第1回 社会教育委員の会議 議事要旨

日 時：令和6年7月1日（月）13：30～
場 所：生涯学習総合センター研修室5・6
出席者：委員7名、事務局5名

1. 委嘱状交付

2. 会議

(1)開会

(2)教育長あいさつ

(3)委員紹介

(4)副議長選出

○副議長に塩谷洋治委員を選出

(5)議事

①会津若松市の魅力を生かす社会教育の推進について

○会津若松の魅力について共通認識を持つため、2つのグループに分かれて議論した。

【第1グループの意見】

- ・会津大学があり、若い人や外国の人が多い
- ・美しい風景や綺麗な水路など、豊かな自然がある
- ・美味しい米やお酒、郷土料理など豊かな食がある
- ・茶道文化や漆など、伝統文化、伝統産業がある
- ・歴史的なまちなみなど観光地が多く、修学旅行生など人を呼び込む魅力がある
- ・人々が優しくてたくましく、地域と人のつながりやまとまりがある

【第2グループの意見】

- ・鶴ヶ城、白虎隊、赤べこ、伝統工芸など観光資源が豊富
- ・自然が豊かでスキーや湖水浴など1年間を通して遊べる場所が豊富
- ・日本酒や食べ物など、美味しいものがたくさんある食の宝庫
- ・子供だけではなく、大人や企業でもあいづっこ宣言を活用している
- ・会津大学やICT産業と連携したまちづくり
- ・歴史ある図書館とそのハブ機能
- ・歴史、伝統の土台となる人材教育と人の良さ

○各グループの意見をもとに全体で議論した。

【各委員からの主な意見】

- ・両グループ共通の項目があるが、一番会津若松にとって大切なものは何か。
- ・地域の図書館は地域の方が作り上げていく。地域文庫のような場所もボランティアを中心に広がり、繋がっていくと良い。
- ・いかに図書館が人が集まる居場所になるか、サードプレイスになるかが非常に重要になってくる。
- ・両グループで食の文化が共通しており、食育を社会教育にも生かしていくと会津の魅力との関連性が出てくる。
- ・会津には武士の文化や茶道の文化があり、古い歴史もあるから、社会教育の面からもう少し掘り下げていろんな体験活動などを進めていければ良い。
- ・会津の郷土料理や伝統野菜などを、子供だけや大人だけじゃなく、会津全体で大事にしていくような取り組みも大切である。
- ・子どもから大人まで全てを「あいづっこ」と捉えて、色々な事業を積極的に進めているが、なかなかまだ市民には浸透してない。「あいづっこ」を1つのキーワードとして社会教育を考えていくとよい。
- ・いろんな人たちが、食や食づくりを楽しんだりする場所や、伝統産業の作業場など、居場所みたいな場所を作っていくと住みやすいと思う。

(6)その他

2. 閉会